

科目名	微生物学 Microbiology		担当教員 (研究室番号)	駒田 洋 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 後期	科目区分	専門支持科目		選択区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業形態	講義	科目等履修生	否
科目目的	病原微生物は、細菌・ウイルス・プリオン・真菌・原虫に分けることができる。本講義では主に、細菌・ウイルス・プリオンを扱う。これらの病原体の特徴と、個々の細菌やウイルスおよびプリオンが起こす病気について述べる。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌とウイルスの違い(構造・大きさ・遺伝子・増え方など)を理解し説明できる。 2. 特に若い女性に重要な、パピローマウイルス、風疹ウイルスが起こす問題について説明できる。 3. 新たな感染症(新型コロナ)、また一度激減した感染症(梅毒)も増加していることを理解し説明できる。 4. この10年程前から新規ワクチンがいくつか認可され、日本がワクチン後進国から脱却しつつあることを理解し説明できる。ウイルスの増殖を抑える薬がいくつか(インフル、HIV、C型肝炎、など)開発されていることが説明できる。 5. 個々の細菌が起こす病気、および個々のウイルスが起こす病気について知り、説明できる。新型コロナが終わっていないこと。インフルによる脳症での死亡例や、トリインフルがヒトに感染する可能性について説明できる。 6. ダニから感染する、SFTSウイルスや日本紅斑熱、ツツガムシ病について説明できる。 7. 孤発性プリオン病、牛海綿状脳症を説明することができる。またマラリアについても説明できる。 											
	筆記試験(100%)											
再試験の有無と基準等	試験で不合格になった者については、再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、それまでの試験、出席などは評価に加味しない。											
教科書	系統看護学講座 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進4 (医学書院)											
参考書等	病原体・感染・免疫(南山堂) 藤本秀士編集、感染症と世界史:人類はパンデミックとどう戦ってきたか(宝島社) 神野正史監修											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	21世紀にはワクチンや薬により感染症は激減すると言われたことがあります(1970~80年代)が、実際には次々新たな感染症(特にウイルス)が出現してきています、性感染症も増加しています。ワクチンや薬の開発も簡単ではありません。今後も人類が経験したことのない感染症が出現する可能性があります。講義は8回しかなく、骨子しか述べられません。教科書を中心にしてパワーポイントでまとめます。詳しくは出来ませんので、自学自習をお願いします。講義では基礎的内容を取り扱いますので、遺伝子、タンパク質、免疫もよく勉強しておいて下さい。医療機関を受診する患者さんの多くが感染症(インフルエンザ、風邪、食中毒など)であること、場合によっては短期間で死にいたることも認識して下さい。											
備考	授業の進行はシラパスと必ずしも一致しない場合があります(新規ワクチンや薬の承認、思いがけない感染症の出現など)。事前学習の教科書のページは、2025年2月1日第14版第4刷によるもので、その後改訂があれば多少変動します。ご了承下さい。思いがけない感染症の発生、新たなワクチンの認可・接種対象の変更などについて、ネット、TV、新聞なども注意しておいて下さい。											
回	学習項目	学習内容							主担当教員	授業方法		
1回	微生物学概論。微生物の種類(細菌、ウイルス、プリオン、真菌、原虫)とその特徴。	細菌、ウイルス、プリオン、真菌、原虫の特徴と違いについて学び、病原微生物の全体像を理解する。用語の説明を行い、用語の意味を学ぶ。細菌総論:細菌の形態、グラム染色、感染症法について学ぶ。若い女性に重要な、パピローマウイルス(子宮頸癌の原因)、風疹ウイルス(妊婦に感染すると、先天性奇形児が生まれる)をまずここで学ぶ。							駒田	講義		
2回	細菌(総論、各論1)	細菌総論の続き:細菌の増殖、毒素、癌をおこす可能性のある細菌、食中毒を起す細菌、抗菌薬(抗生物質)とその副作用、薬剤耐性菌、ワクチンについて学ぶ。細菌各論:ブドウ球菌、溶連菌、肺炎球菌、淋菌、緑膿菌などを学ぶ。							駒田	講義		
3回	細菌(各論2)	レジオネラ菌、百日咳菌、大腸菌、病原性大腸菌(O157等)、赤痢菌、サルモネラ菌、ペスト菌、コレラ菌、腸炎ビブリオ菌などを学ぶ。							駒田	講義		
4回	細菌(各論3)	インフルエンザ菌b型、カンピロバクター、ピロリ菌、炭疽菌、リステリア菌、ジフテリア菌、結核菌、非結核性抗酸菌、らい菌、破傷風菌、ボツリヌス菌、梅毒トレポネーマなどを学ぶ。							駒田	講義		
5回	細菌(各論4)、ウイルス(概論)	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア。ウイルス(総論):構造、増殖の仕方、腫瘍ウイルス、食中毒をおこすウイルス、抗ウイルス薬、ワクチンなどを学ぶ。							駒田	講義		

6回	ウイルス（各論1）	遺伝子がDNAのウイルス：痘瘡ウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘-帯状疱疹ウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、ヘルペス6,7,8型、アデノウイルス、パピローマウイルス（特に子宮頸癌予防のワクチンの重要性について）、パルボウイルス。 遺伝子がRNAのウイルス：インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RSウイルス、メタニューモウイルスなどを学ぶ。	駒田	講義
7回	ウイルス（各論2）	狂犬病ウイルス、ポリオウイルス、コクサッキー・エコー・エンテロウイルス、ライノウイルス、ロタウイルス、風疹ウイルス（妊婦要注意）、黄熱ウイルス、デングウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルス、マールブルグウイルス、エボラウイルス、ラッサウイルスなどの出血熱ウイルス。コロナウイルス（3種）、ノロウイルス、SFTSウイルスなどを学ぶ。	駒田	講義
8回	ウイルス（各論3） プリオン病、マラリア原虫	ヒトT細胞白血病ウイルス、ヒト免疫不全ウイルス。肝炎ウイルス（A B C, D, E型）。プリオン病（伝達性海綿状脳症）：ウシ海綿状脳症、ヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病、ヒトの若年性海綿状脳症、クールー。マラリア（日本の過去の状況）などを学ぶ。	駒田	講義

学 習 課 題	
1回目課題[事前]	微生物の説明（教科書3-12頁）、細菌総論（13-35）、グラム染色（15-16）、感染症法（181-184）
2回目課題[事前]	細菌の増殖（25-26）、細菌の毒素（77-82）、細菌による食中毒（65-66）、抗菌薬（149-162）、細菌に対するワクチン（187-191）、細菌各論1（195-204）：ブドウ球菌、溶連菌、肺炎球菌、淋菌、緑膿菌
3回目課題[事前]	細菌各論2（206-220）：レジオネラ菌、百日咳菌、大腸菌、病原性大腸菌（0157等）、赤痢菌、サルモネラ菌、ペスト菌、コレラ菌、腸炎ビブリオ菌
4回目課題[事前]	細菌各論3（221-244）：インフルエンザ菌、カンピロバクター、ピロリ菌、炭疽菌、リステリア菌、ジフテリア菌、結核菌、非結核性抗酸菌、らい菌、破傷風菌、ボツリヌス菌、梅毒トレポネーマ
5回目課題[事前]	細菌各論4（247-255）：マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア。ウイルス総論（37-47）：構造（39）、増殖の仕方（41-43）、腫瘍ウイルス（301-302）、食中毒をおこすウイルス（67）、抗ウイルス薬（162-169）、ウイルスに対するワクチン（187-191）
6回目課題 [事前]	ウイルス各論1（257-276）：遺伝子がDNAのウイルス：痘瘡ウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘-帯状疱疹ウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、ヘルペス6,7,8型、アデノウイルス、パピローマウイルス（特に子宮頸癌予防のワクチンの重要性について）、パルボウイルス。遺伝子がRNAのウイルス：インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RSウイルス、メタニューモウイルス
7回目課題 [事前]	ウイルス各論2（276-290）：狂犬病ウイルス、ポリオウイルス、コクサッキー・エコー・エンテロウイルス、ライノウイルス、ロタウイルス、風疹ウイルス（妊婦要注意）、黄熱ウイルス、デングウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルス、マールブルグウイルス、エボラウイルス、ラッサウイルスなどの出血熱ウイルス、コロナウイルス（3種）、ノロウイルス、SFTSウイルス
8回目課題 [事前]	ウイルス各論3（291-301）：ヒトT細胞白血病ウイルス、ヒト免疫不全ウイルス、肝炎ウイルス（A B C, D, E型）。プリオン病（伝達性海綿状脳症）（302-304）：ウシ海綿状脳症、ヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病、ヒトの若年性海綿状脳症、クールー。マラリア（日本の過去の状況も含む）（321-326）。

実務経験を活かした教育の取組
